

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	12-059	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>A systematic review of family-based interventions targeting alcohol misuse and their potential to reduce alcohol-related harm in indigenous communities.</p> <p>アルコール乱用を防止することを目的とした家族単位での介入と介入がコミュニティにおけるアルコール関連障害を減少につながるかについてのシステマティックレビュー</p>		
<b>執筆者</b>		
Calabria B, Clifford A, Shakeshaft AP, Doran CM.		
<b>掲載誌</b>		
J Stud Alcohol Drugs. 2012 May;73(3):477-88. Review		
<b>キーワード</b>		
システマティックレビュー、家族に基づいた介入、アルコール乱用の防止、アルコール関連傷害		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>アルコール乱用はコミュニティにおいて大きな危険要因である。家族がアルコール関連障害のもっとも悪影響を受ける。したがって、家族単位でのアルコール予防介入はコミュニティにおいてアルコール関連障害を減少させると考えられる。このシステマティックレビューは、家族単位での問題飲酒への介入の方法について、研究の方法論を質的に評価すること、介入の特性、コミュニティにおいてアルコール関連障害をもっとも有望な介入方法を明らかにすることである。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>11 の電子データベースを検索した。問題飲酒に焦点を当てた家族への介入方法のレビューのリファレンスリストについても電子的なデータベースの検索で見つけられなかった追加な関連性研究を明らかにするために検索された。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>1,369 の研究が同定された。そのうち 21% の研究が介入研究であった。19 の介入研究は、アルコール乱用を防止するための家族による介入研究であった。これら 19 の研究のうち 11 は、問題飲酒者の世話をする家族に焦点をあてたものであった。そして 8 つの研究は、問題飲酒者の家族に焦点を当てたものであった。研究の方法論の質的評価は、研究デザイン、追跡率、交絡要因などについて行った。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>家族単位での問題飲酒への介入の効果についてのエビデンスは、レビューした研究では改善を示さなかったが、あまり適当ではなかった。コミュニティの家族の役割の重要性を考えると、問題飲酒行動を減少させるために家族ベースのアプローチを探求するメリットがある。家族ベースのアプローチを作る際には対象となったコミュニティへの直接的な、働きかけを含むようにすべきである。</p>		